

報告事項ウ

平成29年度「英語教育実施状況調査」の公表結果及び英語力を高めるための今後の方策について

平成29年度「英語教育実施状況調査」の結果及び英語力を高めるための今後の方策について、別紙のとおり報告します。

平成30年4月18日

鳥取県教育委員会教育長 山 本 仁 志

1 「英語教育実施状況調査」の目的

「英語教育実施状況調査」とは、文部科学省が、全国の公立小学校、中学校及び高等学校等における英語教育に係る具体的な施策の状況について調査し、今後の施策の検討に資するとともに各都道府県教育委員会における英語教育の充実や改善に役立てるために毎年実施するもの。

2 本県の概要

- 「英語担当教師の英語力」について、中学校教師の英語力の上昇率が高い教育委員会の例及び取組例として、鳥取県が取り上げられた。
※別添資料（文部科学省報道発表用 平成29年度「英語教育実施状況調査」の結果（概要）より）
- 「英語担当教師の英語力」について、高等学校教師の英語力は全国7位と高水準にある。
- 「生徒の英語力」は、中学校、高等学校とも微増。平成30年度新規事業「英語4技能ステップアップ事業」等とおして、さらに指導改善を図ることで今後の伸びが期待される。

【英語担当教師ならびに生徒の英語力の状況】

調査項目	H29達成度	全国順位	国の目標値	H28達成度	全国順位
英語担当教師の英語力 ^{※1} の状況（高等学校）	83.3%	7位	75%以上	76.0%	12位
英語担当教師の英語力 ^{※1} の状況（中学校）	28.2%	36位	50%以上	20.7%	44位
生徒の英語力の状況（高等学校） ^{※2}	36.5%	34位	50%	33.9%	36位
生徒の英語力の状況（中学校） ^{※3}	35.7%	35位	50%	34.4%	24位

※1 英検準1級程度以上（CEFR B2レベル以上）

※2 英検準2級以上相当（CEFR A2レベル以上）

※3 英検3級以上相当（CEFR A1レベル以上）

3 分析

（1）英語担当教師の英語力の状況

- H29年度6月補正で予算化され実施した「教員の英語力向上のためのセミナー及び外部試験活用事業」に一定の成果が認められる。

（2）生徒の英語力の状況

- 中学校、高等学校とも、昨年度比で微増しているが、全国の上昇度に比して伸び悩んでいる。
（※H29年度高等学校に関しては、英検第1回検定日が県高校総体日程と重なっていたことも要因のひとつと見られる）
- 国の中央研修を受講した「英語教育推進リーダーによる指導力向上研修（中学校、高等学校）」等で伝達・演習された4技能統合型の指導が、まだ効果的に実践されていない。

4 課題

（1）英語担当教師の英語力（特に中学校）の向上

- 中学校は国の指標50%以上を大きく下回っている

（2）英語担当教師の指導力向上

- 「生徒が英語で何ができるようになっているか」（CAN-DOリスト）についての達成度を、技能別に適切に見取りながらの指導
- 外部試験等の結果を客観的に分析するなど、PDCAサイクルによる指導改善

5 今後の取組

(1) 中学校, 高等学校共通

- ・話すことの指導を中心とした H30 年度新規事業「英語 4 技能ステップアップ事業」の実施
- ・「教員の英語力向上のためのセミナー及び外部試験活用事業」の継続実施

(2) 中学校

- ・客観的データ（外部試験スコア）に基づいて成果を検証する研究方法の普及
- ・取組の前後で伸びが見られるよう研究校への指導助言
- ・市町教育委員会や中学校の教育研究団体と連携した成果普及

(3) 高等学校

- ・大学入試で新たに導入されるスピーキングテストに対応する指導改善に重点的に取り組む。
（H30 新規事業「重点校制度（英語教育重点校）」も活用）
- ・研究校に PDCA サイクルによる指導改善を根付かせ、指導と評価の一体化を図る。
- ・研究校や重点校における授業公開や実践発表による全県への成果普及